



社団法人 シャンティ国際ボランティア会

〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3F
TEL. 03-5360-1233 FAX. 03-5360-1220
URL <http://www.sva.or.jp> E-mail info@sva.or.jp

●SVAタイランド ●カンボジア事務所 ●ラオス事務所
●アフガニスタン事務所 ●ミャンマー難民(ビルマ)事業事務所

発行 2007年5月1日 定価400円
発行人 若林恭英
デザイン・印刷 東京コロニー

寄付金について、税の優遇措置が受けられます

社団法人シャンティ国際ボランティア会は、外務省より「特定公益増進法人」として認定されています。
ご寄付いただいた方は所得税法および法人税法にもとづき、寄付金控除の適用を受けることができます。
当会又はお近くの税務署か税理士にご相談下さい。

サンヴァット小学校の下校風景／カンボジア（撮影：瀬戸正夫）



社団法人 シャンティ国際ボランティア会
私たちは向き合います。苦難の中にいる人々と世界に。

2006年度 2006年1月1日～2006年12月31日

年次報告書

2007年度 活動計画

Shanti Volunteer Association
Annual Report 2006

私たちの願い

SVAは、地球上の貧困や戦争、内紛、環境破壊、災害などによって苦しむ人々のそばに立ち、
苦しみを分かち合いその人々と共に解決のための活動を行います。

そして「共に生き、共に学ぶ」ことができる平和（シャンティ）な社会の実現を目指します。

平和な社会とは、すべての民族と人間の尊厳が保たれ、

国家や民族、宗教、言語、文化の違いを美しき多様性ととらえ、違いを称え合い、

争いは対話をもって解決される社会のことです。

SVAは、特にアジアにおける教育・文化活動を通じてこのような社会の実現をはかります。

それは、伝統文化と価値観に根ざした地域共同体を大切にし、考える力や想像力を培い、

社会や生活の様々な問題を解決する力を養うことを意味します。



CONTENTS

SVA宣言 ～私たちの願い～	2	アフガニスタン	12,13
ごあいさつ、SVAの歩み	3	ミャンマー（ビルマ）難民	14,15
2006年度を振り返って、2007年度に向けて	4,5	緊急救援	16,17
タイ	6,7	日本	18,19
カンボジア	8,9	会計報告	20,21
ラオス	10,11	組織一覧、ネットワーク一覧、受賞歴	22,23

ごあいさつ

手を、とりあうこと。

社団法人 シャンティ国際ボランティア会(SVA) 会長 若林 恭英



「曹洞宗東南アジア難民救済会議（JSRC）」から様々な変遷を辿って、今日の「シャンティ国際ボランティア会（SVA）」へと至る四半世紀。これまで、私は地方の協力者として、あるいは一役員として当会の活動に関わってまいりましたが、この度、2007年度通常総会において、松永然道前会長の後を継いで会長職をお受けすることになりました。

会発足当初の苦難の道のりは、すでに伝説となって語り継がれているところですが、すぐれた前任者のあとだけに、どこまで務めることができるのか危惧の念を禁じ得ません。しかし、手探りで培ってきたSVAの精神を大切に、役員、スタッフと一丸となって力を合わせて精進してまいりたいと願っています。

この節目にあたり、SVAの原点を改めて振り返ってみますと、ことに弱い立場の人々の「こころ」を大切に行動してきた先達の歩みが浮かび上がって参ります。それは茨を切り開くがごとき険しい道のりでした。SVA設立の礎となられた故有馬実成専務理事は「NGOの道はくけものみち>を行くようなものだ」と言われました。そして、「評論家でいた方がどれほど楽か。でもあえて自分を変えようとする活動が<シャンティ>なのだと思う」とも言われました。その言葉は今もなお、私たちの心に深く刻まれています。そしてもう一人、今までSVAを牽引してこられた松永前会長は、「アジアに教育の機会に恵まれない子どもが一人もいなくなるまでSVAの活動は続けなければならない」と語り、多くの人々の信頼を集めてこられました。この二人のスクラムによってSVAがこれまで継続してきたことは疑いのない事実です。

これから新たな体制で出発するにあたり、今まで培ってきた「共に生き、共に学ぶ」姿勢を基本に、「手を、とりあうこと。」をモットーとして、アジアの、いや世界の困難な立場にある人々と共に歩んでまいります。とくに、現在でも難民キャンプの中で閉塞状態に置かれている人々や、構造的な貧困、民族紛争などにあえぐ多くの人々が明るさを取り戻せるよう、SVA全体で取り組んでまいります。そのような意味を込めて、団体のスローガンを次のように掲げさせていただきます。——「私たちは向き合います。苦難の中にいる人々と世界に。」

末尾となりますが、今までご支援をいただいた多くの皆様に感謝の念をささげると共に、今後とも温かく見守ってくださるようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

松永然道前会長は名誉会長に就任いたしました。

SVAの歩み

1980年	SVAの前身、曹洞宗東南アジア難民救済会議（JSRC）設立、カンボジア難民支援として図書館活動を開始。タイ事務所（バンコク）設立	2000年	ミャンマー（ビルマ）難民支援開始。有馬実成元専務理事逝去。
1981年	JSRCのボランティアが曹洞宗ボランティア会（SVA）を結成。	2001年	インド西部大地震救援。アフガニスタン食料支援。
1983年	カンボジア難民への「慈愛の衣類を贈る運動」、日本各地で展開。	2002年	佐々木主浩投手（当時）、SVA国際ボランティア親善大使就任。
1984年	初の開発事業がタイ・スリン県バーンサワイ村で始まる。	2003年	アフガニスタン事務所（ジャララバード）開設。有馬実成著『地球寂静』出版。
1985年	タイのラオス難民キャンプで印刷活動開始。タイ・チェンカーン、バンコク・スアンプルースラムで図書館活動開始。		イラン南東部地震救援開始。
1989年	タイ・バンコクのクロントイスラムに職業訓練センター開設。	2004年	兵庫県豊岡市台風23号水害救援。新潟中越地震救援。スマトラ島沖津波災害救援開始。阪神淡路大震災10周年事業。
1991年	カンボジア事務所（プノンペン）開設。タイにSVAの現地法人シーカー・アジア財団を設立。	2005年	三宅島島民帰島支援事業開始。愛・地球博「地球市民村」に参加。パキスタン北東部地震救援開始。チャイルド・ブック・サポーターを開始。
1992年	ラオス事務所（ヴィエンチャン）開設。「曹洞宗国際ボランティア会」と改称。	2006年	ジャワ島中部地震救援開始。
1995年	阪神淡路大震災活動開始。		
1997年	北朝鮮食糧支援		
1999年	「社団法人シャンティ国際ボランティア会」に改組。トルコ大震災救援、台湾大震災救援。		

タイ Thailand



図書館には親子連れも訪れる

表2 2006年度奨学金受給生の地域別一覧

活動地域	中学生	高校生	大学/専門	合計
バンコク	61 (34)	37 (23)	2 (2)	100 (59)
スリン	32 (25)	48 (33)	4 (2)	84 (60)
ルーイ	74 (37)	52 (41)	4 (3)	130 (81)
バヤオ	83 (60)	41 (24)	12 (7)	136 (91)
合計	250 (156)	178 (121)	22 (14)	450 (291)

※() 女性の数

表3 2006年度学生寮の地域別受入一覧

活動地域	名称	中学生	高校生	合計
ルーイ	チェンカーン学生寮 (メコン青年の家)	19 (16)	11 (11)	30 (27)
バヤオ	シャンティ学生寮	28 (15)	22 (12)	50 (27)
合計		47 (31)	33 (23)	80 (54)

※() 女性の数

2006年度は9月にクーデター、年末には「爆破テロ」が相次いで起こり、そして深南部3県では、襲撃・爆弾事件などの死者総数が2,000人を超えるなど、政治的な不安定さをさらに露呈した年となりました。また、経済成長率が年4%となっている反面、社会の経済格差は益々拡大しています。

教育面では、2002年から義務教育が小学校6年と中学校3年の9年制となり、中学校の就学率は83%となっていますが、実際には、様々な教育関係費がかかるために就学を断念せざるをえない子どもたちが数多くいます。

2007年度は、このような状況に鑑み、社会的な底辺層に位置する都市スラムや山岳少数民族、貧しい農村地域の子どもたちを対象とした教育支援活動を、地域と協働しながら進めています。

図書館事業

2006年度は、「幼児教育の質改善事業」が3年目を迎えました。バンコク都市スラム及び農村地区の保育士を対象とした「おはなし研修会」を3カ所で実施し、200名が参加しました。研修後には保育園約90カ所、約3,400名の児童に対して、1,350冊の絵本を配布し、その後保育士による絵本の読み聞かせ活動が実践されており、保育士の教育技能の向上が見られました。

常設図書館では、山岳少数民族モン族の村である、パヤオ県センサイ村に新たに図書館をオープンしました。また、スラム地区を対象とした移動図書館活動は、70カ所の保育園や地域を訪問して、合計173回の「おはなし会」を実施、のべ23,062名が参加しました。

2007年度は研修事業で培った保育士とのネットワークをより強化し、地域に根ざした図書館活動の充実を図ります。

表1 常設図書館の地域別データ一覧

図書館所在地	蔵書数	貸出図書	貸出者数	会員	利用者
バンコク・クロントイスラム	3,820	2,811	1,138	372	26,492
バンコク・チュアバーンスラム	1,917	1,194	697	1,208	9,494
スリン県ムアン郡	1,785	10,236	4,141	412	14,300
ルーイ県チェンカーン郡	3,577	1,946	740	647	2,207
パヤオ県センサイ村	546	420	--	220	2,572
合計	11,645	16,607	6,716	2,859	55,065

アジア教育奨学金事業

2006年度は、奨学金を450名に支給しました。10月には、「奨学生青年リーダー育成キャンプ」をスリン県バーンサワイで開催し、各地域から計68名の奨学生が参加しました。また、支援者対象のモニタリングツアーを実施し、子どもたちの現状への理解を深めていただきました。

この他にも、奨学生はスラムの清掃活動や、図書館で年下の子どもたちに絵本の読みきかせを行うなどの地域活動にも積極的に参加しています。(表2参照)

中高生学生寮

パヤオ県のシャンティ学生寮に50名、ルーイ県のチェンカーン学生寮に30名



Photo by 瀬戸正夫

の中高生を受け入れました。学生寮は、居住地が学校から遠かったり、経済的に困難な状況におかれているなどの理由から学校に通えない中高生を対象としています。また、寮内のさまざまな活動や共同生活を通じて、学習面・生活面のバランスがとれた成長を促すプログラムが組まれています。

2007年度も上記の2つの寮で、80名の寮生を受け入れる予定です。(表3参照)

研修・交流事業

2006年度は、約980名の事務所訪問者を受け入れました。NGO海外研修プログラムでは、計3名(春季1名、夏季2名)の研修を受入れました。

また、昨年に引き続き、7月には協力団体である大阪マイペンライ、12月には大阪市職員労働組合民生支部の招聘により、タイ人スタッフの日本研修を行い、スタッフの能力強化を図りました。

2007年度も引き続き、タイ人スタッフの日本研修やタイ国内での研修を実施します。また、日本・タイ間の交流事業を促進します。

スアンプルー・スラム復興支援事業

2004年、大火災に遭い焼失してしまった、バンコクのスアンプルー・スラム。住宅再建が急ピッチで進められ、復興の途上にあります。

2006年度、SVAは仮設図書館を運営しました。地域住民や、スラムの奨学生に利用され、住民会議の開催場所などコミュニティ活動にも積極的に活用されています。青少年活動やコミュニティ復興ワークショップ(60名参加)などを行い、スアンプルー・スラムの復興を支援しました。12月には、地域内のセンターとしての役割が期待されているコミュニティ図書館と保育所の建設が始まりました。

2007年度も、引き続き同様の活動を行っていきます。

スマトラ沖津波災害復興支援事業

当事業は、対象をパンガー県内の3つの郡に絞って活動を行いました。図書館活動では、2005年10月にサマーキータム寺内図書館(クラブリー郡)を、2006年2月にナイライ村小学校内コミュニティ図書館(ターイムアン郡)を、そして5月には、プルッティアオ恒久住宅内図書館(タクアパー郡)を開館させました。

移動図書館活動では、常設図書館3館の周辺地域を対象とした活動を実施し、年間114公演、12,348名の参加があり、また、6月には小学校教員と保育士を対象とした「おはなし研修会」を実施し、96名が参加しました。その他に、被災地域児童110名に奨学金を支給しました。

表4 パンガー県内図書館の常設図書館・地域別データ一覧

図書館所在地	蔵書数	貸出図書	会員	利用者	開館日数
ナイライ小学校内	2,130	5,969	341	9,688	228
プルッティアオ恒久住宅内	1,449	4,294	377	10,268	197
サマーキータム寺内	1,698	5,902	487	12,309	330
合計	5,277	16,165	1,205	32,265	--



Photo by 瀬戸正夫

北タイ、パヤオ県の奨学生



Photo by 瀬戸正夫

スアンプルー・スラム内の仮設図書館



スマトラ沖津波被災地の図書館

カンボジア Cambodia



Photo by 瀬戸正夫

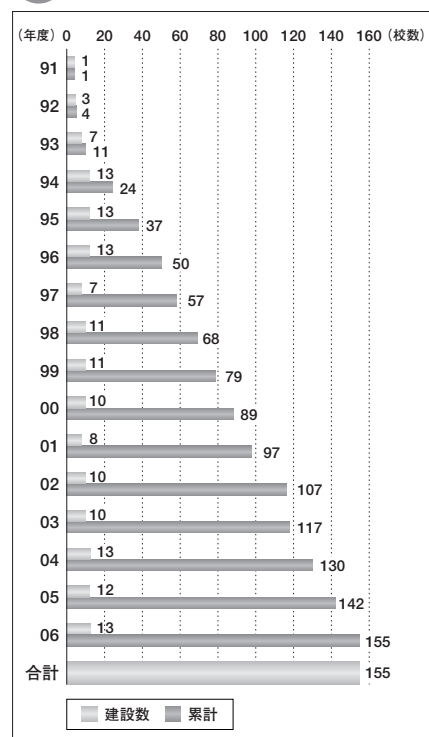


図書館運営活動に関する研修会の様子



学校建設の開校式

図1 年次別小学校建設実績



2006年4月、内戦終結後2度目となる、全国1,621の村、地区(コミュニン)評議会の議員の地方選挙が実施され、地方分権化が一層促進されました。しかし、国民の34%は、依然として貧困の生活を余儀なくされています。貧富の格差は、開く一方。地方と都市の格差も開き続けています。

2007年のカンボジア教育省の統計では、小学校だけでも全国で15,000教室が不足し、小学6年生までの全過程を卒業できるのは、小学1年の入学者の48%。とくに、地方の農村の遠隔地では、教科書や本もなく教育環境はきわめて劣悪な状態です。

図書館事業

バンティミンチェイ州、コンポントム州の150の小学校を対象に、約113,000人の子どもたちを対象として活動を展開しています。

2006年度は、「図書館活動の運営に関する研修会」を11回開催し、588人の図書館員、校長が参加しました。カンボジア語の図書と紙芝居の出版は、絵本5タイトル(各3,000部)、紙芝居を2タイトル出版。移動図書館活動では、80カ所の小学校で行い18,945人が参加しました。バンティミンチェイ州教員養成学校の中にモデル図書館を建設しました。2006年度の大きな成果としては、全対象校が図書館を設置し、図書館員が配置されました。独自の図書館活動の運営が可能となり、子どもたちの読書能力や、聞く力、話す力、書く力の向上に大きく貢献し、子どもたちの学ぶ喜びや学習意欲もまた向上させることができました。

2007年度は、JICAの草の根技術支援事業「カンボジアにおける小学校図書館活動指導書作成を通じた人材育成事業」を通じて、州レベルだけでなく国レベルの教育省の職員を育成することによって、図書館活動普及の全国展開の基礎を作る計画です。また、世界遺産のあるシェムリアップに地方事務所を設置する計画です。

学校建設事業

コンポントム州、カンポット州で計画していた13棟(うち1棟はモデル子ども図書館)が完成しました。雨期の豪雨、水害、悪路等のトラブルがありましたが、建設は無事終了しました。学校運営強化のため、学校を建設した郡および州の教育局担当官を対象に2泊3日のスタディーツアーを行いました。

2007年度は、対象地域を拡大し、これまでのコンポントム州に加えて、隣接するシェムリアップ州を組み入れ、全体で12校を建設する計画です。州教育局、郡教育局と協力し、従来の校舎、井戸とトイレに加えて、図書館活動、植林活動、環境整備を含めた「知育」「德育」「体育」が可能な「夢の学校」をデザインし、カンボジアのモデル校を設置していく計画です。

文化支援事業

2006年からベトナム国境のスヴァイリエン州にて、寺院を中心とした植林事業を開始。15,000本の苗木を育て、3,000本を植林しました。

カンボジア全国の僧侶を対象とした「仏陀の教えと日々の実践」セミナーには、カンボジア全土から389人の僧侶、州、郡の宗教局関係者が参加しました。「カンボジアの伝統と文化」に関する研修会を2回開催し、403人が参加。出版活動では、「民衆の踊り」「民謡」を各7,000部ずつ出版しました。

2007年度は、バットアンバン州の寺院の調査と仏教僧のスタディツアーを新たに計画しています。

スラム教育文化支援事業

プノンペン市のバサック・スラムにおいて、コミュニティ・スクールに通う102名の子どもたちを支援しました。5月に同スラムの強制移転が執行されたため、移転地への緊急援助を行いました。8月、プディング・スラムにコミュニティ図書館を開設。9月からは移転地とプノンペン市内のスラム6カ所を対象に移動図書館活動を行い、1,539名の子どもたちが参加しました。

2007年は、コミュニティ図書館活動、伝統文化活動にあわせ、調査を兼ねて新たなスラム地域50カ所を対象に移動図書館活動を行います。

アジア子ども文化祭

第11回「アジア子ども文化祭」を首都プノンペンを中心にカンボジア教育省との共催で開催いたしました。参加国は、カンボジア、ベトナム、ラオス、タイ、ミャンマー、日本の6カ国でした。



苗木の様子をみる僧侶



スラムでの移動図書館



アジア子ども文化祭のステージ公演

ラオス Laos



Photo by 瀬戸正夫



ルアンパバン県公共図書館で絵本を読む子どもたち



ヴィエンチャン市公共図書館・多目的ホール

表1 2006年度公共図書館
利用者統計

図書館名	項目	合計
SVA子ども図書館	利用者数	9,148
	貸出冊数	3,687
	新規会員	258
SVA青少年図書館	利用者数	13,028
	貸出冊数	17,682
	新規会員	794
サワンナケート 県立図書館	利用者数	24,279
	貸出者数	3,703
	貸出冊数	7,240
ルアンパバン 県立図書館	新規会員	272
	利用者数	35,843
	貸出者数	15,945
チャンパサック 県立図書館	貸出冊数	35,727
	新規会員	449
	利用者数	11,255
シェンクワン 県立図書館	貸出者数	2,302
	貸出冊数	5,891
	新規会員	258
シェンクワン 県立図書館	利用者数	5,798
	貸出者数	1,790
	貸出冊数	4,119
	新規会員	164

2006年6月に、ラオス国民議会は、カムタイ大統領から8年ぶりにチュンマリ一新大統領を選出しました。また、首相以下主要閣僚も交代し、若手の実務派世代が起用されました。人民革命党の一党支配という状況は変わりませんが、より諸外国との関係を重視し、開かれた国づくりに向けて進んでいくものと期待されています。

首都ヴィエンチャンは、この2、3年で自動車やバイクが急激に普及し、交通渋滞、交通事故の多発が大きな問題となっています。また、新しいビルや建物が次々にでき、建築ラッシュの様相を呈しています。首都と地方の経済格差、貧富の格差はいよいよ大きくなってきて、首都ではより高い国際水準の教育が求められる一方、地方の教育状況はなかなか改善されず、とくに遠隔地や少数民族の子どもたちへの支援がより必要になっています。

図書館と青少年事業

2006年度はJICA草の根パートナー事業を活用した「公共図書館支援を通じた読書活動普及事業」が本格的にスタートしました。SVAが建設から関わったサワンナケート、ルアンパバン県の公共図書館で引き続き利用が伸び、とくに新たに支援対象に加わったチャンパサック、シェンクワン県の公共図書館では年度当初に比べて、利用者が約30倍に増えています。また、公共図書館から学校図書室・図書館への本の貸し出しが始まっています。ヴィエンチャン市公共図書館・多目的ホールが完成し、12月7日正式に開館しました。

SVA移動図書館車は、ヴィエンチャン市中心部6郡の小学校5校、中学校1校、SOS子どもの家（養護施設）、障害者の職業訓練学校、麻薬中毒患者のリハビリテーションセンター、タートルアン前広場の計8カ所で巡回サービスを実施しました。2006年度1年間で272回サービスを行い、利用者合計36,672人、貸出冊数17,307冊でした。

ドンカムサーン教員養成学校内モデル幼稚園が完成し、2007年度以降、研修会実施や運営支援を通じて、幼児教育のカリキュラム改善に貢献する予定です。図書館は、ルアンパバン県の2郡にて小学校53校を対象に94箱の図書館を配布しました。245人の小学校教員と10,847人の小学校児童が図書館を利用することになります。

2007年は公共図書館支援事業をさらにすすめ、ヴィエンチャン市図書館の運営支援、地方4県の公共図書館の整備、ヴィエンチャン県への新図書館の建設を実施します。

アジア子どもの家事業

2006年度も毎週平均して約600人の利用があり、活発な活動を行いました。来館する子どもの数に対して、活動費、予算が不足している点が課題です。「アジア子どもの家」がモデルになって全国に広がっている子ども文化センターは、2006年度新たにサラワン県にオープンし、子ども文化センターがない県はラオス全国17県中3県のみとなりました。

2007年度は、事業カウンターパートである中央子ども文化センターの自立的運営をさらに促進するよう支援していきます。

学校建設と村ぐるみの教育改善事業

2006年度は、3棟の小学校校舎を建設支援し、合計456人の子どもたちが新しく安全な学校で勉強できるようになりました。とくにナーホーンカム小学校は、これまで3年生までの3教室しかなかったために、4、5年生は5km離れた隣村まで通わなければなりませんでした。新しい校舎の完成によって、自分の村で小学校を卒業できるようになりました。

ボリカムサイ県の二つの学校群では、学校群内での教員相互の教え合いや、学校図書室の共同使用が機能しています。バントゥアイ小学校群では、学校図書室の図書を学校群内の7校で巡回させるため、毎週1回校長が各学校を回っています。1年間で学校図書室の利用者は12,360人、貸出者数が350人ありました。また、教員は自ら作った教材で子どもたちに親しみやすい授業を行っており、村人たちが教員と一緒に計画を立て、募金をして学校活動を支えています。

外務省NGO支援無償資金が、11月に採択され、サラワン県の2つの学校群での教員研修が始まりました。2007年度はボリカムサイ、サラワンの2県4つの学校群を対象に、学校建設と教員研修、図書館活動と父母会活性化からなる統合的な教育支援活動を継続して実施していきます。

サラワン県全域で少数民族の子どもたちを対象とした教材開発の調査を行いました。2007年度は教材を製作し、研修会を行って学校に配布していきます。

国際交流事業及び研修事業

2006年度は11月に行われたSVA図書館活動国際研修会でタイ、カンボジア、アフガニスタン、ミャンマー難民キャンプの図書館スタッフと相互研修を行うことができました。NGO海外研修プログラムとして、夏季に2名を受け入れました。2006年のラオス事務所への訪問者は、35グループ、154人でした。



新しく建設された学校で勉強する子どもたち



インペーン小学校。右が新校舎。左が旧校舎。

アフガニスタン Afghanistan



Photo by 安井浩美



子ども図書館でお絵かきを楽しむ子どもたち



絵本・紙芝居出版委員会のミーティング



「おおきなかぶ」の読み聞かせ

これまで、30年以上にわたって戦乱が続いたアフガニスタンでは、子どもたちの5人に2人が学校に通うことができません。さらに、7割以上の学校は校舎がないなどの劣悪な教育環境にあります。

治安状況は悪化しており、2006年の1年間だけで、アフガニスタン国内での戦闘などによる死者は4,000人とも言われています。その内、少なくとも899人が民間人です。その中には米軍や国際治安支援部隊による空爆の巻き添えなどで亡くなった230人、暗殺されたNGO関係者や公務員177人が含まれています。また、自爆攻撃も急増しており、2006年だけで139件発生しました（2005年発生件数は21件）。

2007年は、SVAがアフガニスタン東部のジャララバード市に事務所を開設してから5年目になります。これからも、未来を担う子どもたちが夢と希望を持てる社会の建設に、教育支援を通じて取り組んでいきます。

図書館事業

1 子ども図書館事業

2006年度、ジャララバード市内で運営している常設の子ども図書館には、親を亡くした子どもや経済的に苦しい家庭の子どもたちを含めて、毎日100名もの子どもが訪れました。SVAは、学校に行けない子どもや学力不足で苦勞している子どもたち40名を対象に、学力強化のプログラムを導入しました。また、裁縫教室や伝統舞踊教室、定期的な母親参観を実施しました。

2007年度は、図書普及活動をさらに進めます。また、図書館関係の行政官、教員、図書館員が図書館活動への理解を深められる場となる、モデル図書館になることを目指します。

2 絵本・紙芝居出版事業

2006年度はパシュトゥン語版に加えタリ語版の出版も始め、5タイトルの絵本を出版しました（タリ語600冊、パシュトゥン語600冊）。これまでの実績とあわせて累計で26タイトルの絵本が揃いました。また、紙芝居出版事業では、2006年度に2タイトルを出版。これまでの実績とあわせ、累計で4タイトルの紙芝居が揃いました。これらの絵本や紙芝居は、SVAの子ども図書館や学校図書室、移動図書箱活動に活用されています。

2007年度は、8タイトルの絵本（タリ語600冊、パシュトゥン語600冊）と2タイトルの紙芝居（200セット）の出版を予定しています。

3 移動図書箱事業・教員ワークショップ事業

2006年度は、24校の学校を対象に移動図書箱事業を行い、8,848冊の図書を配布しました。2007年度も、同じく24校に配布する予定です。

図書館活動の普及のために実施する教員ワークショップ事業については、24校で実施しました。2007年度は、32校を対象に実施予定です。

学校建設事業

アフガニスタン東部のナンガハール州において学校建設を行い、2006年度には4校(33教室)が完成しました。これら全ての学校に図書室を設置し、図書を配布するとともに、移動図書箱活動や教員研修を実施しました。その結果、1,594名の生徒が、校舎で学び、図書室を利用することができました。

2007年度は、新たに3校（36教室）の建設を計画しています。完成すると2003年度からの累計が15校(165教室)となります。

緊急救援事業

2005年10月に発災したパキスタン北東部地震の被災地に、アフガニスタン人スタッフを派遣し、2006年7月まで救援活動を実施しました。

また、2005年の集中豪雨で河川が決壊し、2004年に建設したナンガハール州アハマディ小学校が浸水による被害を受けたため、2006年度に被害部分の修理と校舎の塗り替えを行いました。

国際交流および研修事業

2006年度は、「チャイルド・ブック・サポーター」のキャンペーン参加のため、アフガニスタン人スタッフ2名を日本に派遣し、イベント参加や報告会を行いました。

また、タイで開催された「図書館活動国際研修会」にアフガニスタン人スタッフ2名が参加。さらに、マネージャーレベルの現地スタッフ1名を、英国のイースト・アングリア大学のNGOマネジメント研修に派遣しました。

調査・研究事業

2006年度は、ジャララバード市内で働く500人の子どもと貧困地域に居住する500世帯を対象に、ユニセフと共同で教育や経済事情等に関する調査を実施しました。調査の分析結果は、今後の事業に反映させていきます。

表1 2003-2007年度 アフガニスタン事業実績一覧

年度		絵本・紙芝居			建設した	建設した学校の		建設地の学校で学んでいる現在の生徒数		
		出版タイトル数			学校数	部屋数		(増築の場合は新築年度に含む)		
		絵本	紙芝居	合計タイトル数	棟数	合計教室数	内、図書室数	男子	女子	生徒数計
2003	1年目	5	0	5	2	21	1	1,190	790	1,980
2004	2年目	10	0	10	4	49	4	2,974	837	3,811
2005	3年目	8	2	10	2	26	2	1,315	870	2,185
2006	4年目	5	2	7	4	33	3	1,047	547	1,594
2007	5年目(見込)	8	2	10	3	36	3	1,202	2,141	3,343
年度		36	6	42	15	165	13	7,728	5,185	12,913



新しく建設された小学校に通う子どもたち



校舎がない学校では野外で授業せざるをえません

ミャンマー(ビルマ) 難民

Myanmar (Burma) Refugees



Photo by 瀬戸正夫

図1

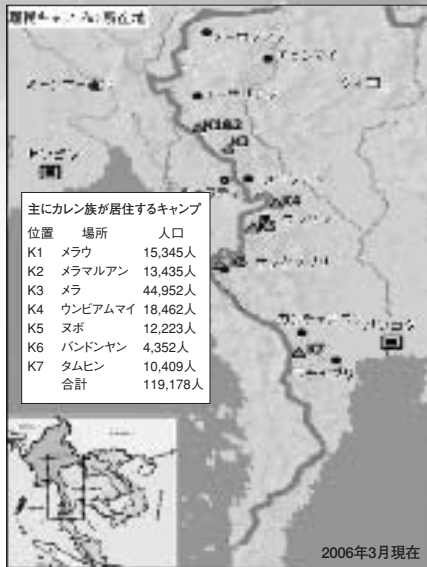


Photo by 瀬戸正夫

日本から贈られた絵本を読む子どもたち

表1 2006年度までに建設した図書館数

活動地域	難民キャンプ名	図書館数	合計
メーホンソン県	メラウ	4	25館
	メラマルアン	5	
ターク県	ヌボ	2	
	ウンピアム	4	
	メラ	6	
カンチャナブリ県	バンドンヤン	2	2
ラチャブリ県	タムビン	2	

2005年から開始した第三国定住政策は2006年も継続され、12月末までに約4,500人のミャンマー難民がアメリカを中心とした欧米10カ国へ定住しました。一方でミャンマー国内の政情は安定せず、また首都移転に伴う強制移住や強制労働が行われたこともあり、新たな難民のタイ国内への流入は現在も続いています。第三国定住者の中には、キャンプ委員会や医師、教員も大勢含まれており、キャンプの自治運営などに大きな影響を与えています。学校でも教員不足が深刻化しており、新たな雇用、育成に力を注がなければならない状況があります。長期化する難民生活では、とくに子どもたちに教育の機会の提供が必要不可欠であり、既存の学校教育の維持と同時に他の社会教育施設との連携を強化して第三国定住策における課題に取り組んでいく必要があります。

図書館事業

2006年度はメラマルアン、メラウそしてバンドンヤン難民キャンプにて図書館を増築、計3館が新たに開館しました。第三国定住政策に伴い7名の図書館員が難民キャンプを去り、新たに図書館員を雇用し育成しなければなりません。経験豊かな図書館員の離職は大きな痛手となりました。既存の活動を維持するため、実施面ではSVA図書館スタッフの関わりがより必要とされた期間でもありました。

2003年9月から2006年の3カ年計画で進めてきた、活動第2フェーズの終了年度であり、事業評価を実施しました。これまでの活動の成果や課題を、今後の活動計画にしっかりと活かしていきます。

子どもの日、母の日、父の日でのイベント、図書館で実施している伝統舞踊・伝統楽器の活動を通じた伝統文化コンテストなどを定期的に実施し、図書館活動だけでなくコミュニティ活動の場としての役割が一層高まり、子どもから高齢者まであらゆる層に利用される施設となってきました。より幅広い対象に向けた活動を展開できるよう、今後は関係団体との連携・協力体制を一層強化していきたいと考えています。

1 図書館建設

メラウ、メラマルアン、バンドンヤン難民キャンプに新たに図書館を1館ずつ建設しました。これまでのデザインに青少年用の部屋を加え、図書館でも学習できるよう環境を整えました。2006年度運営した図書館の数は全部で25館となりました。タイ政府の方針により2007年度から恒久的な資材を使用した建設が可能になったので、今後、既存の図書館についても恒久的な資材を活用して修繕または建て直しを行っていくよう計画しています。

2 図書

児童書については日本から20タイトル、タイから15タイトル、計35タイトルを新たに選書して、1館につき日本語の絵本80冊、タイ語の絵本60冊の計140冊を配布しました。著作権の手続きがこれまで以上に円滑に行われたこともあり、前年度に比べてタイトル数を約2倍に増やすことができました。成人用図書については各図書館に毎月平均90冊の本を配布しました。内容は小説、農業、家庭、保健・医療、政治、経済などの一般書に加え、雑誌や新聞などを配布しました。9割以上がビルマ語での図書となり、配布総数は27,251冊となりました。

3 図書館員・図書館委員会研修

11月に第4回図書館員合同研修をメーソットにて実施、今年度は6カ所のキャンプから約50名の図書館員が参加しました。講師は自治労大阪府本部から派遣され、幼児教育、障がい児教育そして保健衛生の分野について学びました。また、第1回目の図書館委員会研修を実施しました。各キャンプ2日間にわたり図書館活動の運営及び実施に関する講義を受けました。

4 青少年図書館ボランティア活動

各キャンプにて図書館青少年ボランティア活動を立ち上げました。メンバーは、15歳から25歳の約20名で構成されています。約半年にわたって募集から選考を行い、7月にメンバーが決定しました。その後人形劇研修を行い、10月にはSVA図書館スタッフと共にキャンプ内のキャラバン公演（人形劇公演）に参加して活動を開始しました。今後は、図書館青少年ボランティアが各コミュニティにおいて人形劇公演を自主的に実施できるよう、引き続き研修を行っていきます。

5 作家・イラストレーター育成

現在SVAが行っている絵本出版活動に参加してもらう作家・イラストレーターを育成するための第1回研修会を実施しました。タイの絵本作家2名、編集者1名を講師に招き、全キャンプにて公募し選出された約20名の作家・イラストレーター志望者が参加しました。今後も引き続き研修会を実施して人材を育成していきます。

6 絵本出版

毎月行われた高齢者活動にて収集・記録したカレン民話をもとに、6タイトルの民話絵本を出版しました。その他、子どもの人権や、カレンの詩など計8タイトルの出版活動を実施しました。

7 ミャンマー難民に絵本を贈る運動

10タイトル1,500冊の絵本を日本の協力団体の皆様から贈っていただきました。また、モニタリングツアー実施の際、子どもたちに直接絵本を贈っていただくこともできました。

8 タイ・カレン小学校での巡回移動図書箱活動

難民キャンプ周辺の6郡において、60校の小学校にタイ語の絵本を入れた図書箱を巡回しました。

人材育成事業

2006年度は、事業コーディネーター3名がバンコクで行われた事業運営に関する研修会に参加して能力強化を図りました。また、スタッフセミナーを行い、次年度の事業計画・予算について議論しました。

2007年度は、コーディネータースタッフの尚一層の能力強化を図るべく、引き続き研修を実施します。



Photo by 瀬戸正夫

紙芝居の読み聞かせに見入る子どもたち



スタッフによるパネルシアター



Photo by 瀬戸正夫

図書館内の様子



Photo by 瀬戸正夫

難民キャンプ内の小学校の様子

緊急救援



「これなあに？」というゲームをする子ども
(パキスタン)



SVAの支援により設置した図書館兼教室 (パキスタン)



ジャワ島グヌンキドウル県の被災家屋

2006年度は、前年度に発生したパキスタン北東部地震災害への支援を継続すると共に、5月にインドネシア・ジャワ島中部で起きた地震災害への救援活動を行いました。活動実施に際しては、「SVAの支援のあり方～①地域に根ざした活動の展開 ②人に寄り添い、より必要な人に必要な支援を ③子どもと住民の安心のために～」を大切にしながら取り組んできました。国内では、「みやけじま＜風の家＞」を応援する一方で「防災寺子屋」を通して地域の防災教育にも積極的に取り組みました。

パキスタン北東部地震救援事業

2005年10月8日にパキスタン北東部で発生したマグニチュード7.6の地震救援活動は、事業期間を7月末まで延長して実施しました。

地震発生直後は、物資配布活動を中心にした活動でしたが、年明け後、第2フェーズでは、教育支援活動として小学校支援、図書館活動を実施しました。北西部辺境州マンセラ郡内の小学校30校（児童数計5,715名）を対象に、図書室兼教室として利用できる仮設校舎を43棟設置し、学用品セット、学校備品（黒板、机・椅子、スポーツ用品など）と図書館備品（本棚、机、お絵かきセットなど）を配布しました。さらに、教科書以外に子ども向けの図書がなかった同地域に、アフガニスタン事務所で出版したウルドゥ語の翻訳シールを貼った民話絵本、パキスタン国内市販のウルドゥ語絵本など計13,954冊を配布しました。教員向けの図書館研修会には計108名が出席、被災生活のストレスを癒すため実施した遠足とおたのしみ会には、計3,097名の児童が参加しました。図書館には春・夏休みも多くの子どもたちが通ってきました。緊急時の教育支援活動には地域行政、教員、保護者など多くの方から感謝の声が寄せられました。今後のSVAの緊急救援活動に反映させていきたいと考えています。

インドネシア・ジャワ島中部地震救援事業

2006年5月27日、インドネシア・ジャワ島中部でマグニチュード6.3の地震が発生、約6,000名の方が命を落とし、約300,000人が住む場所を失いました。しかし、被災地域には＜ゴトン・ロヨン＞という互助組織があり、被災後もこの組織が中心となって炊き出し、瓦礫撤去、けが人の世話、救援物資の配布などが行われました。

SVAは災害直後から現地NGO2団体と協働し、＜ゴトン・ロヨン＞を通して食糧・テント・調理道具・瓦礫撤去用具等の救援物資の配布や設置した仮設クリニックでの医療支援、住民参加型の仮設住宅支援を開始しました。

その後、被災した子どもたちの心の安らぎと笑顔の回復のために、「子どもの遊び場」を5集落5棟設置し、絵本の読み聞かせやお絵かき、工作などの研修を受講した集落の青年が中心となって日々の活動が行われました。12月下旬には、子どもたちに心から楽しめる時間を過ごしてほしいという考えから、5集落の子ども150人と青年50名が参加しての「子どもフェスティバル」を3日間開催し

ました。その他、幼稚園8校（218名）、小学校11校（1,500名）への学用品・給食支援や、住民の希望に応じた各種ワークショップを開催しました。今後は、集落の青年が活動を引き継いでいきます。

「みやけじま＜風の家＞」支援事業

「ひとにやさしい家、ひとがあつまる家、人と人がつながる家」をキーワードに、三宅島に「みやけじま＜風の家＞」が開設されてから1年が経過しました。島では依然として火山性ガスの放出が続き、加齢が進む島民にとっては厳しい暮らしが続いていますが、＜風の家＞では各種プログラム（手芸・うた・体操・散歩）や昼食会が行われるなど、島民の憩いの場となっています。引き続き、三宅島災害・東京ボランティア支援センターを通して＜風の家＞への支援に取り組んでいきます。

子ども防災教育『防災寺子屋』とSVA災害支援サポーターチーム

地域に住む子ども、保護者、自治会や行政等、多様な住民組織の参加を促しながら、「防災まちあるき&マップづくり」を中心に据えた子ども防災教育、『防災寺子屋』をSVA災害支援サポーターのメンバーと連携しながら全国各地で実施しました。引き続き、「災害につよい地域づくり」をキーワードに、地域で防災・減災を目指した活動に取り組むSVA災害支援サポーターや関係団体と連携しながら、取り組んでいきます。

大地震を想定した行動指針の改定、救援体制の強化

昨今頻発する国内外の大規模災害に迅速に対応できるように、行動指針の改定を行っていくとともに、各種マニュアルの整備や備品の調達を進める予定です。同時に、首都圏直下型地震を想定したSVA組織内リスク管理の整備を早急に行います。



「子どもの遊び場」で絵本を読む
子どもたち（ジャワ島）



みやけじま＜風の家＞での餅つき大会（2006年12月）

日本 Japan



Photo by 瀬戸正夫



CBSキャンペーンで来日したジャミラ・スタッフ (アフガニスタン)



2007年度版クラフト・エイドの新カタログ (ご請求はSVAまで)



リサイクルブックエイドのパンフレット (ご請求はSVAまで)

チャイルド・ブック・サポーター

2005年に開始された「チャイルド・ブック・サポーター (CBS)」事業。2005年が地を「耕す」時期であったとすれば、2006年は「種まき」を行ったといえます。海外事務所のスタッフを招き、6月から10月まで全国35カ所でキャンペーンイベントを行い、これまでSVAと触れたことのない多くの方々との、新たな出会いがありました。多くの皆様のご協力・ご支援のもと、落語や講談と現地スタッフ読み聞かせの共演、地域の読み聞かせサークルとのジョイントなど、各地で様々な試みを行いました。また、サポーターとして参加くださる皆様からのご意見をいただく良い機会にもなりました。2006年度は事業開始から1年目にあたり、サポーターの皆さまにお送りした子どもたちからの感謝状、SVAオリジナル民話絵本やスタッフからのご挨拶状なども好評でした。

2007年度は運動の輪を広げ、海外の子どもたちと日本のサポーターとの架け橋を、より確かなものとして築けるよう努めたいと考えています。

絵本を届ける運動

2006年度分として、カンボジアとラオスに16,006冊の絵本を届けることができました (対目標比124%)。個人のほか、のべ96の学校、のべ47の企業にもご参加いただき、ベルマーク教育助成財団からの助成や船会社による輸送支援も継続していただくことができました。2007年度は、支援先にミャンマー難民キャンプとアフガニスタンが加わりました。18,000冊を目標に、参加者とのつながりを更に深め、運動が一層広がるよう努めています。

クラフト・エイド及びリサイクル・ブック・エイド

2006年度は、通販部門の売上げが伸びた結果、売上額が予算比の113%となり、協力者数は約1,150名に増えました。2007年度は、生産者の広報に努め、通販部門のさらなる拡大をめざしていきます。ブックオフコーポレーションの協力を得て行っている「リサイクル・ブック・エイド」はより多くの方にご理解・ご参加いただけるよう、新しいパンフレット (左) を製作しました。

会員・支援者との連携

2006年度も「クラフト・エイド」、「絵本を届ける運動」、海外スタッフ報告会、「防災寺子屋」などを中心に地域協力者と顔の見える関係づくり、直接つながりあう活動に努めました。中でも一年を通して実施されたチャイルド・ブック・サポーターキャンペーンは、全国各地の会員・協力者の方々に受入れと広報を担っていただき実現させることができました。9月には演歌歌手の、あさみちゆきさんと東京・長光寺のご協力によってチャリティコンサートを開催し、

100名を超える方たちにご参加いただきました。2007年度は、会員、代議員、「国際ボランティアの寺」、役員との相互連携の中で、「チャイルド・ブック・サポーター」を始めとした運動の輪をさらに広げていきたいと思います。

広報活動

IT媒体を活用した広報活動がさらに進展し、ホームページアクセス数は年間58,000件、メールニュースの配信数も前年度とくらべると約2倍に増えました。企業などの協力によってインターネットを利用した寄付活動も行われるようになっていきます。紙媒体では、CBS活動に関わる各種広報物の製作や公共の場所に掲示していただく「写真ニュース」の大幅リニューアルなどを手がけました。また、SVAの理念と価値を内外に向けてわかりやすく示すために、組織カラーやスローガン「私たちは向き合います。苦難の中にいる人々と世界に。」、キャッチコピー「手を、とりあうこと。」を定めました。2007年度は、これを踏まえてブランディング戦略の展開を進めていく一方で、対象にあわせたきめ細やかな情報発信にこれまで以上に努めていきます。

海外支援活動

2006年度は、4年ぶりに海外事務所で図書館事業に携わるスタッフが一堂に会する「SVA図書館活動国際研修会」を開催。アフガニスタン・ミャンマー難民事業の事業評価活動を実施しました。2007年度は、引き続きNGO海外研修プログラムを実施し、若い人たちが海外事務所で活動体験できる場を提供します。また、海外事業の指定寄付・助成金調達により海外の活動をサポートすると共に、国内では政策提言・NGOのネットワークに積極的に参加していきます。

企画調査・政策提言活動

SVAが教育協力NGOネットワーク (JNNE) の事務局を務め、『EFA (万人のための教育) グローバルモニタリングレポート2007』の翻訳出版、発表会を衆議院会館で実施したほか、セミナーを国際協力機構 (JICA) と共催で実施しました。また外務省委託による「災害復興」分野のワークショップを3回開催。文部科学省委託による「ライフスキル教育事業運営マニュアル開発事業」も実施しました。



歌手・あさみちゆきさんから寄付を受けとる SVA茅野事務局長



手を、とりあうこと。

社団法人 シャンティ国際ボランティア会

私たちは向き合います。苦難の中にいる人々と世界に。

Shanti Volunteer Association

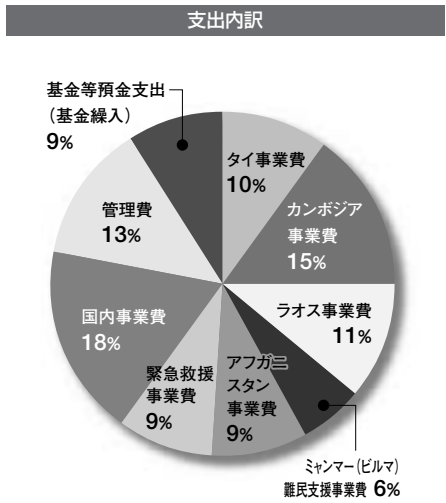
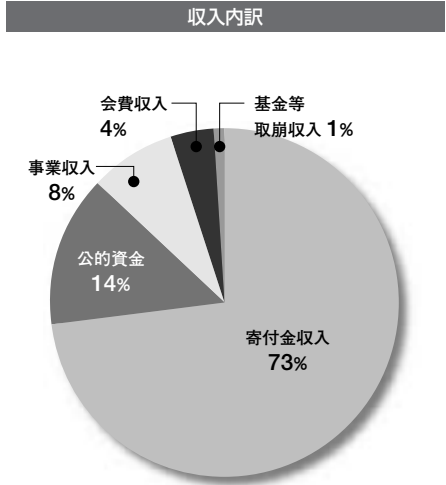
資料編

会計報告

収支計算書 2006年1月1日～2006年12月31日

(単位：円)		
基本財産運用収入		
会費収入		259,987
寄付金収入		489,195,969
収入の部	アジア子ども募金	70,455,527
	タイ事業指定募金	28,485,523
	カンボジア事業指定募金	89,595,891
	ラオス事業指定募金	47,774,874
	ミャンマー（ビルマ）難民事業指定募金	4,390,080
	アフガニスタン事業指定募金	37,547,222
	絵本を届ける運動募金	31,546,630
	チャイルド・ブック・サポーター	9,728,556
	リサイクル・ブック・エイド	2,647,762
	緊急救援募金	167,023,904
事業収入		
	国内公益関連収入	36,468,942
	海外公益関連収入	1,643,946
	その他の収入	16,284,540
補助金収入		
	外務省	48,957,214
	国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）	12,233,688
	国際連合児童基金（UNICEF）	9,032,003
	国際協力機構（JICA）	19,782,105
基金等預金取崩収入（人材育成・奨学金基金）		
当期収入合計（A）		664,990,389
前期繰越収支差額		8,884,883
収入合計（B）		673,875,272

支出の部	事業費		523,117,893
	一般海外事業費	タイ事業費	66,963,125
		カンボジア事業費	101,283,638
		ラオス事業費	75,009,221
		ミャンマー（ビルマ）難民事業費	38,030,634
		アフガニスタン事業費	58,802,589
	緊急救援事業費		61,475,859
	国内事業費	一般国内事業費	90,421,440
		クラフト・エイド事業費	31,131,387
	管理費		83,068,600
	人件費		57,163,530
	業務委託費		4,726,715
	施設費		9,874,582
	諸経費		11,303,773
	基金等預金支出（緊急救援基金）		57,746,251
当期支出合計（C）			663,932,744
当期収支差額（A）-(C)			1,057,645
次期繰越収支差額（B）-(C)			9,942,528

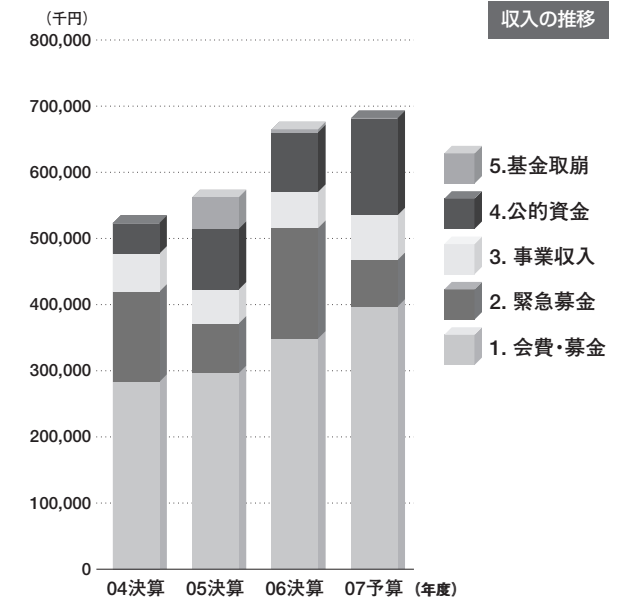


2006年度に補助金、助成金を受けた 主な公的機関・団体
●国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）・国際連合児童基金（UNICEF）「ミャンマー（ビルマ）難民キャンプにおける図書館活動事業／ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ」
●外務省「日本NGO支援無償資金協力／貧困地域における幼児教育改善事業（タイ）」
●外務省「日本NGO支援無償資金協力／ミャンマー（ビルマ）難民キャンプにおける図書館活動事業」
●国際協力機構（JICA）「図書館活動を通じた初等教育の質の改善事業（カンボジア）3年目」
●国際協力機構（JICA）「公共図書館支援を通じた図書・読書活動普及事業（ラオス）2年目」

収入と支出の推移

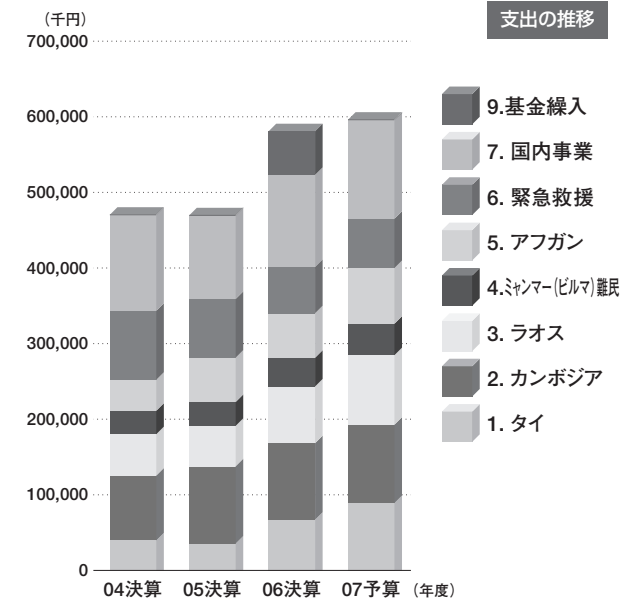
(1) 収入の内訳

(単位：千円)					
	04決算	05決算	06決算	07予算	構成％
1.会費・一般事業募金	283,088	296,243	348,694	396,759	58.2%
2.緊急救援募金	136,340	74,996	167,025	70,525	10.4%
3.公益事業関連収入等	57,517	51,415	54,657	67,646	9.9%
4.公的資金	46,181	91,726	90,005	146,570	21.5%
5.基金等取崩収入	0	47,767	4,609	0	0.0%
合 計	523,126	562,147	664,990	681,500	100.0%



(2) 支出の内訳

(単位：千円)					
	04決算	05決算	06決算	07予算	構成％
1.タイ事業費	39,621	35,460	66,963	88,994	13.1%
2.カンボジア事業費	85,872	102,380	101,284	103,744	15.2%
3.ラオス事業費	54,678	53,355	75,009	91,932	13.5%
4.ミャンマー（ビルマ）難民事業費	31,005	31,582	38,031	41,568	6.1%
5.アフガニスタン事業費	40,907	58,544	58,803	73,628	10.8%
6.緊急救援事業費	91,320	77,749	61,476	65,264	9.6%
7.国内事業費	127,015	110,564	121,553	130,997	19.2%
8.管理費	81,389	93,295	83,069	85,373	12.5%
9.基金等預金支出（基金繰入）	0	0	57,746	0	0.0%
合 計	551,807	562,929	663,934	681,500	100.0%



貸借対照表 2006年12月31日現在

(単位：円)		
資産の部	流動資産	139,131,692
	現金預金	90,461,148
	売掛金	264,960
	未収金	31,292,361
	前払金	7,466,969
	貯蔵品（手工芸品）	5,782,920
	その他の流動資産	3,863,334
	固定資産	343,327,535
	基本金預金	50,000,000
	基本準備金預金	111,129,902
	基金等預金他	182,197,633
	資産合計	482,459,227

(単位：円)		
負債の部	流動負債	129,189,165
	未払金	24,337,900
	前受金	85,704,917
	預り金	18,840,913
	未払法人税等	70,000
	未払消費税等	235,435
	負債合計	129,189,165
正味財産の部	正味財産合計	353,270,062
	負債及び正味財産合計	482,459,227

社団法人シャンティ国際ボランティア会は、当会監事による監査及び新日本監査法人よる計算書類の審査を受けております。

資料編

組織・ネットワーク一覧

会員（2006年12月31日現在）

会員合計数 2,140名

社員会員	337名	賛助会員	1,802名	名誉会員	1名
社員個人会員	279名	賛助個人会員	1,505名		
社員団体会員	58名	賛助団体会員	174名		
		賛助学生会員	87名		
		賛助維持個人会員	23名		
		賛助維持団体会員	13名		

役員（2007年4月1日現在）

理事(会長)	若林恭英（長野県・安楽寺住職）	理事	里見照子（医療法人英然会理事）
理事(副会長)	神津佳予子（有限会社ケイアンドアイ代表取締役）	理事	繁岡哲哉（曹洞宗栃木県国際ボランティア会事務局長）
理事(副会長)	三部義道（山形県・松林寺住職）	理事	角 直彦（特定非営利法人シャンティ山口代表）
理事(専務理事)	秦 辰也（シーカー・アジア財団理事）	理事	茅野俊幸（SVA事務局長）
理事(常務理事)	倉科利行（長野県・全久院住職）	理事	野村修一（弁護士）
理事(常務理事)	早坂文明（宮城県・徳本寺住職）	理事	萩野頼子（株式会社飯能製作所代表取締役社長）
理事(常務理事)	八木沢克昌（SVAカンボジア事務所長）	理事	笹岡賢司（静岡県・龍谷寺住職）
理事	赤石和則（拓殖大学国際学部教授）	理事	渡津法晃（愛知県・龍洞院住職）
理事	上原泰男（東京災害ボランティアネットワーク事務局長）	監事	青木利元（ボランティア活動推進国際協議会理事/ボランティア活動国際研究会代表）
理事	小野田全宏（特定非営利法人静岡県ボランティア協会常務理事）	監事	白石 孝（自治労荒川区職員労働組合書記長）
理事	亀崎弘記（新九州電力ユニオン労働組合経営対策局次長）		

代議員（2007年4月1日現在）

荻野徹厳（北海道）	矢島道彦（栃木県）	櫻井大文（千葉県）	渡辺恵司（東京都）	浅田有彦（愛知県）	有馬嗣朗（山口県）
高山元延（青森県）	鎌田恭子（茨城県）	芦川正夫（東京都）	渡辺有理子（東京都）	富田基房（大阪府）	松尾哲雄（長崎県）
鳥谷部俊悦（青森県）	田中治彦（茨城県）	浅野幸子（東京都）	近藤博道（長野県）	SVA京都寺院の会（京都府）	甲斐之彦（大分県）
谷本俊昭（岩手県）	石本浩道（群馬県）	柏原信幸（東京都）	丸山素香（長野県）	林 道子（兵庫県）	荒木正昭（熊本県）
赤塚俊治（宮城県）	青木利人（埼玉県）	坂本親晃（東京都）	高橋敬雄（新潟県）	田村 薫（兵庫県）	
伊串泰純（宮城県）	後藤史郎（埼玉県）	坂本親泰（東京都）	渡邊真人（新潟県）	橋本純信（奈良県）	
岡崎正利（宮城県）	三田村昌生（埼玉県）	吉原里絵（東京都）	嶋田英淳（静岡県）	原 道雄（島根県）	
金平相隆（福島県）	宮寺守正（埼玉県）	増田和生（東京都）	松永寛道（静岡県）	西村信恵（広島県）	
黒田光泰（栃木県）	木村 憲（千葉県）	安井清子（東京都）	透 隆嗣（岐阜県）	町田宗鳳（広島県）	

名誉会長（2007年4月1日現在）

松永然道（静岡県・宗徳院住職）

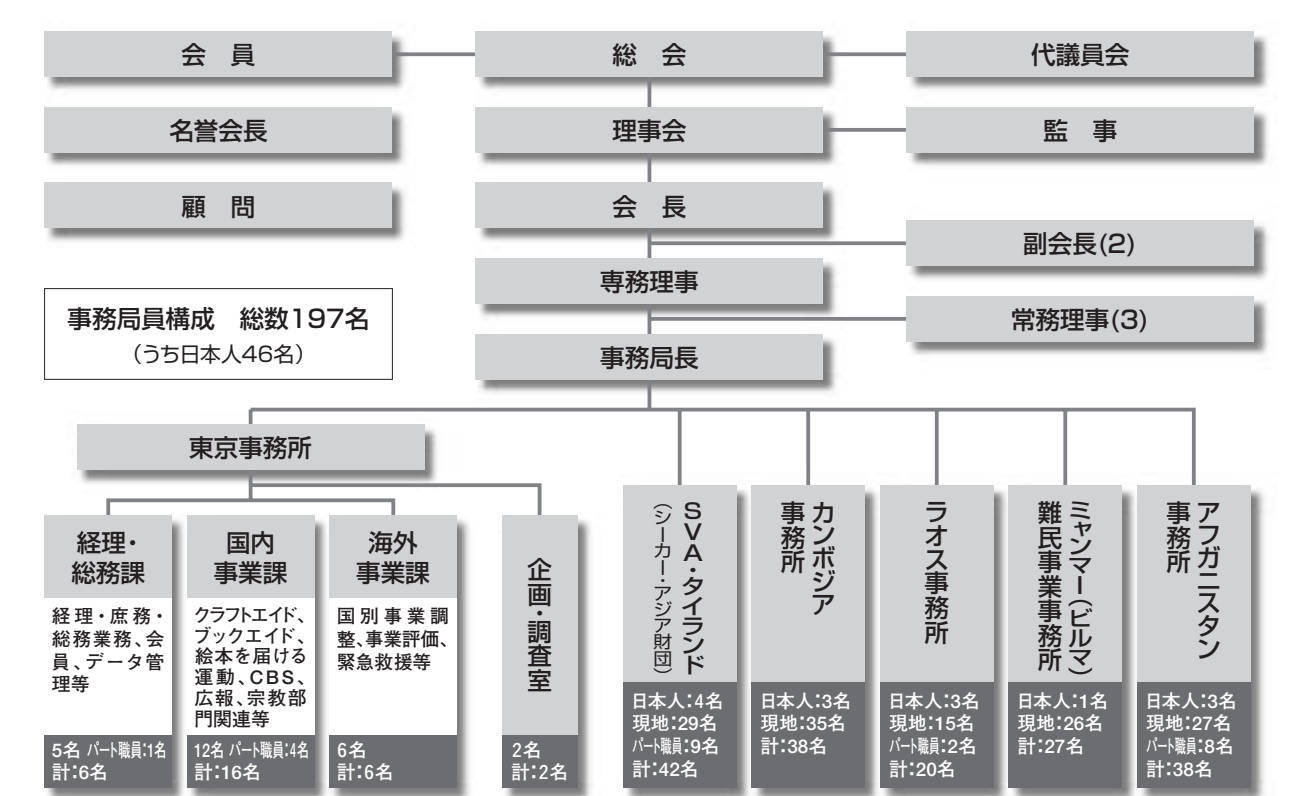
顧問（2007年4月1日現在）

足立房夫（社団法人協力隊を育てる会会長
社団法人東京都障害者スポーツ協会副会長）
阿部豊淳（宮城県・光寿院住職）
荒巻 裕（近畿大学副学長・文芸学部教授）
川原英照（熊本県・蓮華院誕生寺貫主、れんげ国際ボランティア会会長）

SVA 国際ボランティア親善大使（2007年4月1日現在）

佐々木主浩（元横浜ベイスターズ）

社団法人シャンティ国際ボランティア会組織図（2007年4月1日現在）



参加ネットワーク一覧

国内	●2008年G8サミットNGOフォーラム【運営NGO】、貧困・開発ユニット【ユニットリーダー】、基礎教育・児童ワーキンググループ【事務局】 ●NGO—労働組合同際協働フォーラム【企画委員】 ●開発教育協会（DEAR）【団体会員】 ●カンボジア市民フォーラム【団体会員】 ●教育協力NGOネットワーク（JNNE）【運営委員、事務局】 ●国際協力NGOセンター（JANIC）【理事】 ●ジャパン・プラットフォーム（JPF）【NGOユニット正会員】 ●地雷廃絶日本キャンペーン（JCBL）【団体会員】 ●震災がつなぐネットワーク（震つな）【幹事】	●全国社会福祉協議会—災害ボランティアコーディネーター研修プログラム開発委員会【検討委員】 ●中央共同募金会—災害ボランティア・市民活動支援に関する検証プロジェクト会議【検討委員】 ●東京災害ボランティアネットワーク（東災ボ）【副代表】 ●日本アフガンNGOネットワーク（JANN）【団体会員】 ●日本UNHCR—NGOs評議会【団体会員】 ●ビルマ市民フォーラム【団体会員】 ●仏教NGOネットワーク（BNN）【代表運営委員】
国外	●Agency Coordinating Body For Ahghan Relief (ACBAR)、在アフガニスタン【会員】 ●Asian South Pacific Bureau of Adult Education (ASPBAE)、【理事】 ●Committee for Co-ordination of Services to Displaced Persons (CCSDPT)（難民支援事業調整委員会）、在タイ【会員】 ●Cooperation Committee for Cambodia (CCC)、在カンボジア【会員】 ●Coordinating Committee for Slum Development (CCSD)、在タイ【会員】	●International NGO Education Meeting、在ラオス【会員】 ●International NGO Meeting、在ラオス、【会員】 ●Japanese NGO Network in Cambodia (JNNC)、在カンボジア【世話人】 ●Japanese NGO Network Meeting (JANM)、在ラオス【会員】 ●NGO Education Partnership (NEP)、在カンボジア【会員】 ●Task Force for Children in Thailand (TFCT)、在タイ【会員】

国内における主な受賞歴

正力松太郎賞（84年） 東京都豊島区感謝状（95年）	ソロプチミスト日本財団賞（85年） 防災担当大臣賞（04年）	外務大臣賞（88年） 兵庫県知事感謝状（05年）	毎日国際交流賞（94年）
-------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------	--------------